

◆令和2年度 幼児教育施設訪問研修より◆

訪問研修の様子



<A園・所>

「作りながら楽しく遊ぶ中で、子どもたちのつながりが生まれるような援助」という保育士が日頃感じている課題について、アドバイザーと一緒に研修しました。日頃の悩みを焦点化し、解決しようとする所の姿勢が感じられます。

<実施園（所）から>

- 素材の提供については、子どもが必要な素材を自分で考えることができるようにし、子どもの発想を大事にしながら遊びの発展への手助けをしたい。
- 今回は半日だったが、アドバイザーの話をもう少し聞きたかったという意見もあり、機会があれば1日の研修を申し込みたい。

<B園・所>

「どのように保育したらよいか知りたい」という若手の声から、普段の保育をもとに研修をしました。所内全体で若手に寄り添い、研修を積み重ねてきた様子が伺えます。



<実施園（所）から>

- よかった点等を認めてもらい、職員にとって大きな励みとなった。
- 子どもたち同士でイメージの共有ができるよう、振り返りのやり取りを模造紙に表すなどし、視覚化していきたい。
- 日頃の保育を通して、客観的に、子どもの姿や心の動き、友達との関係性、今後の保育の在り方を助言してもらいよかった。

<C園・所>

保育者と子どもの思いのギャップを改善し、子どもたちが主体となる保育へと質を高めていこうと、KPT法（Keep（継続すること）/Problem（課題）/Try（解決策））を取り入れ、意欲的に取り込まれています。



<実施園（所）から>

- 改めて、自分の保育を見直す機会となった。
- 訪問研修に向けて、日々の子どもの姿からどのように保育をしているか担任同士で考えた。この過程がとても重要に思えた。
- 悩んでいたことの改善策が少し見えたので、できることから取り入れてみたい。

<D園・所>

公開クラスの保育について、付箋でコメントを寄せるコーナーが設置され、少しの時間でも互いに保育を見合い、研修を進めていこうという園の体制が見られます。



<実施園（所）から>

- MAP 型記録用紙という提案をもらった。園の記録用紙や月案、週案の様式について見直してみたい。
- 保育のヒントとなること、改善したらよいこと等を教えてもらった。
- 保育者も子どもも「楽しい」と感じられる保育を目指し、日々子どもたちと過ごしていきたい。